

京師帝國大學法學科大學

# 經濟論叢

第六卷 第六號

大正七年六月一日發行

## 論說

生命保險業者ノ保健運動

法學博士

財部 靜治

植民地統治ノ形式ニ就キテ(一)

文學士

山本美越 乃

分業ヲ論シテ福田博士教ヲ講フ

文學士

高田 保馬

所得稅ニ於テ所得ノ統一課稅(二卷)

法學博士

神戸 正雄

職工組合論(三)

法學士

海田 嗣郎

露國ノ新まりるくす主義(一)

法學士

米田庄太郎

諾威ノ海運(二卷)

法學士

小島昌太郎

## 時事問題

米價ノ調節

法學博士

戸田 海市

## 雜錄

元祿年間貨幣改鑄ノ由來

法學士

藤田 元春

戰費トハ何ゾヤ

法學士

小島昌太郎

赤穂ノ搦田(一)

法學士

本庄榮治郎

# 諾威ノ海運 (二、完)

小島 昌太郎

## 第二 戰亂ト諾威ノ海運

一 諾威ハ中立國トシテ英獨兩交戰國側間ニ介在セル關係上、戰亂ニ因リテ獲得セル海運業ノ利益ハ甚タ大デアルガ、而モ他方戰亂ニ因リテ喪失セル船舶及ヒ船員モ亦甚タ多數デアアル。最近ノ海外電報ニヨルニ本年(一九一八年)一月三十一日迄ニ喪失セル船舶七一四隻、ソノ噸數總計一、〇五〇、五八三噸、船員八八三名ニシテ、尙其外ニ行方不明ノモノ五十二隻、ソノ乘組員約七百名ナリト云フ。<sup>1)</sup> カクノ如ク喪失船舶數多大ナルガ故ニ、同國戰時保險局ノ支拂保險金モ、昨一九一七年九月末日迄ニ既ニ五億くらふ<sup>2)</sup>ニ達シタ。而モ國營保險ニ於テハ、船舶市價ノ二分一若シクハ三分二以上ヲ引受ケザルガ故ニ、右ノ金額ノ外ニ尙私立保險會社ニヨリテ巨額ノ保險金額ガ支拂ハレタルハ想像スルニ難カラザル所デアアル。

二 戰亂開始後ニ於ケル各國海運力ノ消長ヲ調査スルニ、一九一六年以後ノ各國船舶統計ハ未タ發表セラレザルガ故ニ、試ミニ同年ノ統計ニ基キ、同年ニ於ケル各國船舶隻數并ヒニ噸數ノ一九一四年七月ニ於ケルソレニ對スル増減數及増減歩合ヲ算出セバ左ノ如シ。

國名	一九一六年七月現數	一九一四年七月現數ニ對スル	増減船數	増減噸數	増減噸數歩合	減増噸數歩合
英吉利(植民地共)	1,172	1,111,000	7%			
北米合衆國	111	1,000,000	10%			
日		1,191,600		11%		
本		1,191,600		11%		

1) 四月七日倫敦發國際通信電報ニヨレバ、戰爭ノ爲メ一九一八年三月一日マアニ喪失セル一千百噸乃至二千噸ノ諾威汽船七百四十五隻船員九百四十六名ナリト云フ。  
 2) 1 Kroner = 0. 5376 yen.

獨逸	1,101,322	2.1%	瑞典	462	26,032	0.8%
諾威	46,800	1.2%	和蘭	122	13,821	1.0%
佛蘭西	322	0.0%	丁抹	31	3,731	0.5%
伊太利	41	0.0%	澳洪	5	1,101	0.1%
露西亞	14,641	1.0%	國			

之ニ由レバ諾威ハ噸數增加歩合ニ於テハ北米合衆國ノ次ニ在リテ第二位ヲ占メ、瑞典・和蘭・丁抹等ノ中立國ニ比シテ遙ニ良好ノ状態ニアル。之レ當時獨逸潛航艇モ暴威ヲ振フコト未タ甚ダシカラズ、從ツテ諾威船ノ擊沈セラルルモノモ未タ多カラザルト、且ソハ外國ヨリノ購入船及ヒ國內ノ新造船ヲ以テ喪失船ヲ補ウテ餘リアリタルニ由ル。然ルニ獨逸ガ一九一七年二月一日ヨリ所謂無制限潛航艇戰ヲ開始スルヤ、諾威船ノ擊沈セラルルモノ甚タ多ク、一九一七年ノ損失ハ、戰亂開始以後一九一六年末ニ至ル三十ヶ月間ノ損失ノ殆ト二倍ニ及ンテキル。即チ一九一六年末迄ノ損失ハ約二八〇隻、三七五、〇〇〇噸デアルガ、一九一七年ノ損失ハ四三四隻、六八六、八六二噸デアル。カクノ如ク戰亂ニ因ル損失ノ大ナルト共ニ、他方ニ於テハ各國概テ船舶ノ輸出ヲ禁止シタルガ故ニ、諾威ハ他國船ノ購入ニヨリテ此ノ損失ヲ補充スルコトヲ得ズ、爲メニ同國船ハ一九一七年度ニ於テ著シク減少シタ。乃チ戰亂開始以來ノ同國船舶統計ハ次ノ如クデアル。

年次	汽船		帆船		合計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
一九一四年七月 <sup>1)</sup>	1,657	1,677,372	55	5,471,696	1,712	7,149,068
一九一五年七月 <sup>2)</sup>	1,756	1,772,372	55	5,471,696	1,811	7,244,068
一九一六年七月 <sup>3)</sup>	1,772	1,787,372	55	5,471,696	1,827	7,258,068
一九一七年一月 <sup>3)</sup>	?	?	?	?	?	?
一九一八年一月 <sup>3)</sup>	1,772	1,787,372	55	5,471,696	1,827	7,258,068

1) 諾威政府モ一九一五年十二月以來政府ノ許可ヲ得タル場合ノ外船舶ノ外國輸出ヲ禁止シタ。  
 2) Llogd's Register ニヨル。  
 3) Norske Veritas ニヨル。  
 4) 發動機船ヲ含ム。

三 戰亂開始後ニ於ケル諾威船ノ就役航路ヲ見ルニ、開始當時ハ平常ト大差ナカリシモ、一九一六年三四月頃ニハ諾威船ノ半數以上ハ英佛伊ノ軍需品其他ノ輸送ニ従事シ、殘部ハ南北米、濠洲及亞細亞ノ航路ニ就役シ、獨逸航路ヨリハ全ク其跡ヲ絶ツタ。而シテ昨年未ニ至ツテハ、諾威船ノ殆ト全部ハ聯合國側ノ航路ニ従事シ、其他ノ航路ニハ只從前ノ儲船契約ノ殘存セル僅少ノ船舶及ヒ自國ノ輸出入ニ必要ナル船舶ノミガ従事セルバカリデアアル。彼ノ約二十五ヶ年間ノ努力ニヨリテ漸ク獲得セル極東ノ航路、特ニ支那沿岸航路ノ如キモ、今日ハ諾威船全ク其跡ヲ絶テテ日本船ニ其地位ヲ奪ハレタ。而シテ英吉利及北米合衆國ノ輸出禁止ハ、諾威ト是等兩國間ノ定期航海ヲ殆ト中絶セシメ、又北海方面ニ於ケル航海ノ危險増加ハ遂ニ昨年二月一日以降べるげんに、かつする間ノ旅客船航海ヲモ中止セシメタ。サレバ戰亂中ハ恐ラク諾威ノ定期航路ハ殆ト中絶ノ有様デアルト見テ差支ナイデアラウ。

四 戰亂ノ爲メ各國海運業者ハ何レモ多大ノ收益ヲ獲テキルガ、諾威ニアリテモ亦同様デアツテ、一九一四年ニ於テハ海運ヨリ獲タル同國ノ總收入ハ二億一千一百萬くらゐなニシテ、同年ハ平年ノ四割以上ノ增收ヲ得、一九一五年ニハ平年ノ二倍以上即チ四億七千萬くらゐなトナリ、更ニ一九一六年ニハ十億六千萬くらゐなトナツタ。乍併、獨逸ガ無制限潛航艇戰ヲ開始シタルト、米國ノ輸出禁止ニヨリ米諾貿易ノ杜絶シタルト、及ヒ最高傭船料制度ガ各國ニ採用セラレタルトニヨリ、一九一七年ノ海運收入ハ前年ヨリ約三億くらゐな減少セル見込デアアル。<sup>\*</sup>

諾威ノ海運收入ハ右ノ如ク一九一六年ニハ莫大ノ額ニ昇レドモ、併シ之ハ國家全體トシテノコ

\* 諾威船主協會理事 W. Klavness 氏ノ計算ニヨレバ同國海運收入 1916 年ニハ 65,000,000 ニシテ 1917 年ノ推定額ハ 50,000,000 デアル (Fairplay Feb. 7, 1918, p. 319)

トシテ、海運業者個人ノ計算ニ於テハ、其純收益ハ必ズシモ左ホト大ナルモノデナイ。蓋シ右ノ一九一六年ノ收入總額十億六千萬くらゐの中、約半分ハ保險料及營業費トシテ擦除セテバナラズ、又其殘額ノ約半分ハ國稅及地方稅トシテ支拂ハネバナラスカラ、海運業者ノ收益ハ右ノ約四分一、二億五千萬くらゐなトナルカラデアル。而シテ此ノ二億五千萬くらゐな目下幾何ノ利廻ニナルカト云フニ、諾威ノ船舶評價額ハ漁船ヲ除キ戰亂開始前ニハ總計二億四千萬くらゐなト見積ラレテキタガ、戰亂開始後諸會社ハ個人船主ガ戰前安價ニテ買入レタル船舶ヲ高價ニテ買入レ、且ツ多數ノ外國船ヲ戰時價額ニテ買入レタルガ故ニ目下ノ船舶總價額ハ約十億くらゐなニ昇ツテキル。現時外國航路ニ從事セル諸威船ノ三分一乃至二分一ハ戰時價額ニテ外國ヨリ買入レタモノデアアル故ニ一九一七年モ假ニ前年同様二億五千萬くらゐなノ收益アリトセバ、ソハ投下資本ノ二割五歩ニ當ル譯デアアル。而シテ之レハ、主トシテ運賃及ヒ傭船料收入ニヨル利益デアルガ、此外、船價ノ暴騰ニヨリテ巨利ヲ占メタルモノ多數アルハ言フ迄モナイ。

右ハ海運業者全體トシテノ計算デアルガ、特ニ帆船所有者ノミニ付イテ見レバ、彼等ハ最近ニ至リ甚ダシキ苦窮ニ陥ルニ至ツタ。尤モ、帆船所有者モ一九一五年及ヒ一六年ノ前半期ニハ、大ナル利益ヲ得、外國ヨリ高價ナル帆船ヲ多數買入レテ大變ナ上景氣デアツタノデアアル。然ルニ一九一六年下半年期ヨリ潛航艇戰ガ漸ク劇烈トナリ、一九一七年ニ入りテ獨逸ガ無制限擧沈ヲ始メタルガ爲メ、帆船ノ喪失甚タ多數ニ上リ一時五十六萬噸ニ達シタル同國帆船モ一九一八年一月一日現在ニ於テハ二三四隻、二七四、八八二噸ニ減少シタ。\*而シテソノ航路モ潛航艇危險ノ比較的少

キ南北米航路ニ限ラルルノ有様デアアル。然ルニ北米合衆國船舶院ハ一九一七年十二月、聯合國及中立國船舶ニ付キノノ最高備船料ヲ公定シテ一噸四十五志トナシタルガ故ニ戰亂開始後非常ナル高價ヲ以テ帆船ヲ買入レタル諾威船主ハ殆ト收支相償ハザル状態ニ立チ至ツタ。

五 獨逸ノ無制限潛航艇戰ノ開始ハ、諾威ニトリテハ實ニ國民經濟上一大打擊デアアル。蓋シ諾威ハ前述ノ如ク他ノ何レノ國ヨリモ海運收入ニ依頼スルコト多ク、其國民ノ多數ハ海運ニ從事シ、其外國ヨリ輸入スル必需品ノ代價ハ主トシテ海運收入ヲ以テ支拂フノ有様ニテ、且ツ戰亂開始以後ハ諾威船ノ大部分ハ英米佛伊等ノ軍需品其他ノ輸送ニ從事シテキルノデアアルカラ、其海運收入ノ大部分ハ又主トシテ是等ノ國ヨリ受クル。從ツテ戰亂開始後ノ諾威ニトリテハ、其船舶ガ英米佛伊等ヘノ輸送ニ從事スルハ、其國民經濟上甚タ重要ナル專柄デアアルカラデアアル。故ニ、獨逸ガ聯合國側ノ海上封鎖ヲ宣言シ、ソノ封鎖線ヲ破ル船舶ハ無制限ニ擊沈スベキ旨ヲ聲明ストモ、諾威ハ自國ノ經濟ノ必要上此宣言ニ服従スルコトヲ得ナイ。カカル宣言ニ服従スルハ、彼國ニトリテハ、近來所謂「海上ノ自由」ヲ犧牲ニスルト云フ問題バガリデナク、實ニ經濟上ノ存立ヲ危クスルト同様デアアル。故ニ諾威船ハ危險ヲ顧ミズ封鎖區域ニ侵入シテ屢々敵艇ノ襲撃ヲ受ケ、之ガ爲メ擊沈セララルモノノ中立國中最多數ニ昇ツテキル。而モ諾威ノ船員ハ未タ嘗テ危險區域ノ航海ヲ嫌避セス、敵艇ニ擊沈セラレ、辛ウシテ生命ヲ全ウシタルモノモ、亦直チニ其歸國ノ翌日ヨリ他ノ船舶ニ乘組ミテ航海ノ途ニ上ルト云フコトデアアル。

六 次ニ戰亂開始後ニ於ケル同國造船ノ有様ヲ見ルニ、新造船所ノ設立、既存造船所ノ事業擴張ニヨリ、今日ニ於テハ一年十五萬噸ノ造船能力ヲ有スレドモ、實際ノ造船高ハ概略左表示スガ如

クニシテ、海運界ノ景氣甚タ盛ナルニ拘ハラス、隻數ニ於テモ噸數ニ於テモ、戰前ニ比シ殆ト何等ノ進歩ヲ示シテキナイ。之レ同國ニ於テハ造船ノ主要材料タル鐵鋼ノ產出極メテ少ク平素主トシテ之ヲ獨逸ヨリノ輸入ニ仰キ居タルニ、戰亂開始後ハ殆ト其供給絶エタルニ由ルノデアラウ。

汽船	噸數	一九一四年	噸數	一九一五年	噸數	一九一六年	噸數	一九一七年
帆船	噸數	一九一四年	噸數	一九一五年	噸數	一九一六年	噸數	一九一七年
合計	噸數	一九一四年	噸數	一九一五年	噸數	一九一六年	噸數	一九一七年

右ノ如ク、造船用鐵鋼材缺乏ノ爲メ、目下ノ絶好ノ機會ニ於テサエ海運業并ヒニ造船業ノ十分ナル擴張ヲナシ得ザル今日ノ狀勢ニ鑑ミ、今ヤ同國ニハ二ヶノ製鐵所設立ノ計劃行ハレツツアリト云フ。而シテ同國造船業最近ノ情況トシテ報セラルル所ニヨレバ、Akers 造船所ハ目下主トシテ重量噸六千五百噸型ノ Diesel 式發動機船ノ建造ニ從事シ、Fougner 造船所ハ新式鐵筋こんくりといと船ノ建造ニ成功シ、其最近ニ進水シタル重量噸一千噸ノ "Nansenford" 號ノ如キハ、ろいど船舶検査組合モ之ニ AI 船級ヲ與ヘタト云フコトデアル。鐵筋こんくりといと船建造ノ成功ハ畜ニ鐵鋼ノ產出少キ諾威ニトリテ重大ナル意義ヲ有スルノミナラズ、世界ノ造船界ハ之ガ爲メニ將來一大革新ヲ見ルニ至ルデアラウ。

七 偕テ同國造船業ノ現狀右ノ如クニシテ同國海運業者ガ此戰時ノ絶好機會ニ乗セントスル要求ニ殆ト應ズルコト能ハザル有様デアルカラ、彼等ハ戰亂開始後外國造船業者ニ多大ノ注文ヲ發シ、既ニ一九一六年末ニ於テ彼等ガ北米合衆國造船所ニ對シ契約シタル新造汽船ノ注文ハ重量噸ニテ八十萬噸ニ上リ、其他ノ諸國ニ注文シタルモノ同シク重量噸ニテ五十萬噸ニ達シタ。從ツテ購入

1) ろいど船名録ニヨル、2) 北米合衆國管船局調査ニヨル、3) Fairplay 誌 Jan. 3. 1918. Shipbuilding Notes ニヨル

船ノ代價支拂資金トシテ外國ニ流出シタル正貨モ巨額ニ上リ、ソノ米國ニ對スル額ノミニテモ戰亂勃發以來昨年二月迄ニ一億六千餘萬弗ニ達シ、大藏省ハ之ガ爲メ正貨ノ流出ヲ防止スル必要上金融業者ニ命令シテ船舶購入資金ノ融通ヲ禁止スルニ至ツタ程デアアル。乍併北米合衆國ガ昨年十一月同國造船所ニ於テ建造中ノ外國注文船全部ノ徵發ヲナシタルト、其他ノ事情トニヨリ、右ノ注文船中諸威ニ引渡サレタルモノハ重量噸ニテ三十五萬噸ニ過ギナイ。

目下諸威ノ船主ハ、英國ニ對シ重量噸五千噸乃至九千二百五十噸ノ船約一百隻建造ノ注文ヲ有シ米國ニ對シテハ總計重量噸三十二萬噸ノ注文ヲ有シ、更ニ加奈陀ニハ五萬噸、和蘭陀ニハ八萬噸瑞典丁抹等ニハ合計四十萬噸ノ造船注文ヲ有シ、其總計重量噸數ニテ約一百五十五萬噸、總噸數ニテ約一百萬噸ニ達シテキル。此中、米國ニ對スル分ハ同國政府ニ徵發セラルベシト雖モ、其他ノ分ガ故障ナク完成スルノ曉ニハ、優ニ今日同國ガ戰亂ノ爲メ失ヒタル噸數ヲ回復シテ餘リアルコトトナル。勿論戰時中ハ各國何レモ自國商船、又ハ聯合國商船ノ建造ニ忙クシテ、到底諸威船ノ建造ヲナス暇ナキガ故ニ、上述ノ諸威船ノ完成セラルルハ戰後ノコトノデアアル。言ハバ諸威ノ船主ハ戰後ノ爲メニ上述ノ注文船ヲ有スルト同様デアアル。而シテ目下倫敦ノ銀行ニハ諸威船主ノ預金四千萬磅アルト言フコトデアアルカラ、上述ノ一百萬噸ガ何レモ英國造船業者ノ引受代價即チ噸當リ二十五磅デ建造セラルトセバ、尙一千五百萬磅ヲ剩ス勘定デアアル。國民經濟上何レノ國ヨリモ最多ク海運ニ重キヲ置ク諸威ノコトデアアルカラ、彼等ハ此一千五百萬磅、否出來得ルナラバ更ニ之ヨリモ多クヲ船舶建造ニ投スルヲ敢テスルデアラウ。サレバ今次ノ戰亂ニ因リテ一大打擊ヲ受ケタル諸威海運モ戰後ハ再ビ世界各地ニ一層盛ニ活動スルニ至ルデアラウ。(七、四一〇)